

出題の意図

(選択言語) 専門科目 (指定言語)
(専攻・分野) 哲学・倫理学専攻 哲学分野
(科目) 哲学)

修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。哲学・倫理学専攻哲学分野における基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 哲学・倫理学専攻 倫理学分野)

(科目 倫理学)

設問 1. 論述問題

修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。倫理学分野における基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

設問 2. 基礎知識を問う問題

倫理学分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

出題の意図

(選択言語、○専門科目、指定言語)

(専攻・分野 美学美術史学)

(科目 美学美術史学)

問 1 論述問題

修士課程の水準に求められる学術的な問題意識と論述力を問う問題である。

美学美術史学分野における重要なテーマ対し、その意義や核となる概念、研究史等の学術的前提を正しく理解した上で、自らの観点を示しつつ、適切かつ説得力のある論述を展開する能力が問われる。

問2 各分野の基礎知識を問う問題

美学美術史学分野の修士課程の水準に求められる基礎知識を問う問題である。個別の作家や作品、著作についての基礎知識とともに、この分野の諸概念についての正しい理解も問われる。また本美学美術史学分野は美学、美術史、音楽史などを含む領域の広さを特徴としており、各自の直接の対象分野以外の基礎的な知識も求められる。

出題の意図

専攻・分野 日本史学分野

科目 日本史学

一、論述問題

日本史学分野における修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。日本史に関する基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を通時代的に展開できるかが問われている。学術的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

二、基礎知識を問う問題

修士レベルで求められる各時代の基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

三、史料読解力を問う問題

修士レベルで求められる史料読解力を問う問題である。日本史学を研究していくうえで基礎となる史料を読解する力があるかが問われている。日本史学分野の史料を正確に読みこなせることが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 東洋史学)

(科目 東洋史学)

東洋史学分野の修士課程における学習および研究に必要な基礎知識、および学術的な思考力を問う問題である。

本分野における基本的な問いに対して、具体的な歴史事実をふまえたうえで、論理的で説得力のある論述を展開できるかが問われている。

正確な知識、豊かな発想、明確な論理、理解しやすい文章表現で、東洋史学に関わる諸問題を論述することが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 西洋史学)

(科目 専門科目)

設問 1. 基礎知識を問う問題

西洋史学専攻分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

設問 2. 論述問題

西洋史学専攻分野の修士レベルで求められる学術的な論述力を問う問題である。自らの研究テーマについて、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 民族学考古学分野)

(科目 専門)

I. 論述問題

修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。民族学考古学分野における基本的な問いに対して、近年の研究動向を踏まえて適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

II. 基礎知識を問う問題

民族学考古学分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか、またそれが外国語の場合、適切な日本語に訳されているかも問われている。

出題の意図（大学院文学研究科・国文学専攻・国文学分野）

修士課程・専門科目「国文学」

設問1～7．基礎知識と論述能力を問う問題。

いずれも、国文学専攻国文学分野の修士課程において、必要な基礎知識の有無を問う。とりわけ、学術的思考の基礎となる概念や事象を、幅広く、かつ正確に理解できているかどうかを見定める。かつ、それぞれの設問が対象とする領域において、修士課程で求められる学術的論述力の有無をも問うものである。当該分野における基礎的な問いかけに対して、説得力のある回答ができるかが問われている。すなわち、こうした学問的な思考を、豊かな着想力をもって展開し、なおかつ論旨の一貫した、的確な文章によって表現できることが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 中国文学専攻)

(科目：専門科目)

設問 1 論述問題

中国古典文学、中国現代文学、中国語学の分野のいずれかにおいて、修士レベルで求められる学術的な論述力を問う問題である。題目の内容に関わる領域の一般的な知識を持ち合わせ、具体的に関連する事例や実例を挙げ、論理性と一貫性が備わった日本語の文章で表現する能力が求められる。

設問 2 基礎知識を問う問題

中国古典文学、中国現代文学、中国語学の分野のそれぞれにおいて、修士レベルで求められる基本的な知識を問う問題である。各題、数行程度の分量で日本語を使用して、出題された事項について正確に説明する能力が求められる。

出題の意図

(専門科目)

(専攻・分野 英米文学)

(科目 英米文学)

本試験は、英語学・言語学・英文学・米文学に関する広い基礎知識を確認するとともに（設問Ⅰ）、各受験者が自らの専門領域についてより深い理解を有し、資料・理論枠組み・歴史的文脈を踏まえて自立的に論考できるか（設問Ⅱ）を総合的に評価することを目的とする。設問は、分野横断の基礎を問う問題群（設問Ⅰ）と、各自の専門性をより高度に示す論述問題群（設問Ⅱ）で構成し、学際的な広がりと専門的な深まりの双方を測定する。

出題の意図

(選択言語、○専門科目、指定言語)

(専攻・分野 独文学専攻)

(科目 独文学)

設問 1. 論述問題

修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。独文学専攻分野における基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

設問 2. 文学に関する基礎知識を問う問題

独文学専攻分野における修士レベルで求められる文学関連の基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかが問われている。

設問 3. 言語学に関する基礎知識を問う問題

独文学専攻分野における修士レベルで求められる言語学関連の基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかが問われている。

設問 4. 研究構想力を問う問題

修士レベルに求められる学術的な構想力を問う問題である。独文学専攻分野における修士課程レベルの研究計画を、適切かつ説得力のある言葉で説明できるかが問われている。学問的な構想を、基礎的な知識と豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野

仏文学)

(科目

仏文学)

設問〔1〕．フランス文学史の知識を問う問題

修士レヴェルで求められるフランス文学史の基礎知識を問う問題である。学術的な研究の基礎となる文学史の要点を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。加えて、特定の主題についてフランス文学史の知識を活用しながら学術的に論述することが求められている。

設問〔2〕．フランス語学・一般言語学の知識を問う問題

修士レヴェルで求められるフランス語学・一般言語学の基礎知識を問う問題である。学術的な研究の基礎となる言語学の概念を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。加えて、フランス語学・一般言語学の諸問題について学術的に論述することが求められている。

出題の意図

(専門科目)

(図書館・情報学専攻、図書館・情報学分野)

(図書館・情報学)

設問 1～6. 基礎知識を問う問題

図書館・情報学専攻図書館・情報学分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。「図書館」「情報メディア」「情報検索」の三つの領域に関して、学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。なお、6個の設問の中から3つを選んで解答する形式となっている。

出題の意図

(専門科目)

(図書館・情報学専攻、情報資源管理分野)

(図書館・情報学)

設問 1 ～6. 基礎知識を問う問題

図書館・情報学専攻情報資源管理分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。「図書館・情報学の基礎」「図書館における実務」「図書館界におけるトピック」の三点に関して、学術的な思考の基礎となる概念や事象、出来事の内容を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 美学美術史学専攻・アートマネジメント分野)

(科目 アート・マネジメント)

設問 1. 論述問題

修士レベルに求められている学術的な知識と論述力を問う問題である。アート・マネジメント分野における基本的な問いに対して、分野の基礎知識を理解した上で、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学術的な思考を、豊かな着意力を持って展開し、専門分野の基礎的な用語や概念を正しく用いて論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

設問 2. 基礎知識を問う問題

アート・マネジメント分野における修士レベルで求められるマネジメントとアートの基礎知識を問う問題である。学術的な思考の基礎となる概念や事象を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

出題の意図

(選択言語、専門科目、指定言語)

(専攻・分野 国文学専攻日本語教育学分野)

(科目 日本語教育学)

設問 1. 基礎知識を問う問題

日本語教育学分野における修士レベルで求められる基礎知識を問う問題である。日本語学・日本語教育学の基礎となる術語およびその概念を幅広くかつ正確に理解できているかどうか問われている。

設問 2. 論述問題

修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。日本語教育学分野における基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。日本語学の諸領域に関する知識をもとに、学問的な思考を、論理性と一貫性を備えた正確な日本語で表現できることが求められている。

設問 3. 誤文訂正問題

日本語教育の現場で想定される学習者の誤用例から問題の核心部分を指摘し、規範的日本語文法にもとづいて正確な日本語に修正する能力を問う問題である。日本語教師としてふさわしい日本語運用能力を有するか否かが求められている。